

「子どもの事故防止研修プログラム」を受講した京都教育大学教育学部の学生の感想（抜粋）：2024年12月8日

・子どもの視野体験コーナーでは子どもの視野の狭さを理解することができました。幼児視野体験メガネを装着して車の接近に気づきにくい状況を自分自身が体験してみると、交通事故は決して子どもの不注意だけではなく、周囲の大人の配慮や社会全体の環境づくりの欠如も要因になっていると感じました。

・社会全体で子どもたちの安全を守るためには、すべての大人が子どもの目線で物事を考える必要があります。今回得た知識や気づきを他の多くの人々にも伝えることで、親だけでなく子どもを取り巻く全ての大人が意識を高めることが事故のリスクを少しでも減らすことに役立つのではないかと思います。

・私たちは卒業後教員として多くの子どもたちと毎日を過ごすこととなりますが、それは一つ一つの大切な命と日々向き合っていくことを意味します。子どもにとって身近な大人である教員が子ども達に安全をしっかりと教えていくことは子どもの成長にとっても重要なことだと考えられました。さらに、自分が教えた子ども達が次は誰かの命を守ることができる人に育っていく、そんな教育者になりたいと思いました。

・自転車のヘルメットは事故からの大きなけがや死亡を防ぐために子どもだけでなく、大人も同じように着用しなければならないものだと思います。大人が着用していないのに子どもだけが着用しなさいと言われても、子どもは納得できないと思います。まずは大人である自分たちが着用し、次第にヘルメット着用が当たり前になっていくのが望ましいのではないかと考えました。

・事故は誰にとっても起こりうることで、残念ながら事故によって亡くなってしまう子どもがいることも事実です。だからこそ、重症な事故の検証を行い、適切な対策を講じる努力が必要と感じました。一方、対策を提案してもそれを実践する人がいなければ事故は減りません。そういう意味では事故防止の問題は他人事ではなく、自分事として捉えることが重要と感じました。

・子どもの安全は周りの大人次第であること、子どものための安全な空間作りは大人にとっても安全な空間になることをしっかり覚えておきたいと思います。例えば、ガラス飛散防止シートを貼ることは、子どもがガラスを割った時のケガの防止に役に立ちますが、もし地震が起こった時には大人の怪我を減らすことにも繋がります。床に物を置かないために片付け場所を決めておくことは誤飲防止だけではなく、暮らしやすい空間になると感じました。